

2023年4月27日  
SCプレスリリース2023第2

報道関係各位

## 第9回日本SC大賞・金賞は、『新静岡セノバ』 第7回地域貢献大賞(倉橋良雄賞)は、『SAKURA MACHI Kumamoto』に決定

一般社団法人日本ショッピングセンター協会(会長:清野 智)では、「第9回日本SC大賞・第7回地域貢献大賞」を2023年4月26日(水)開催の第1回理事会にて決定しましたのでご案内いたします。

全国のショッピングセンター(SC)を対象に、当協会全国7支部での支部ノミネート委員会(第一次選考)の選考を経て本部選考委員会で審査した結果、第9回日本SC大賞・金賞には、『新静岡セノバ』(静岡県静岡市)を、第7回地域貢献大賞(倉橋良雄賞)には、『SAKURA MACHI Kumamoto』(熊本県熊本市)を選出しました。また、今回より新たに各支部で将来を見据えた模範となるSCを表彰する「支部特別賞」を設けました。

なお、日本SC大賞を受賞した『新静岡セノバ』には「経済産業省商務・サービス審議官賞」が、地域貢献大賞を受賞した『SAKURA MACHI Kumamoto』には「国土交通省都市局長賞」が併せて授与されます。

表彰式は、2023年5月23日(火)に、ホテルニューオータニ(東京都千代田区)で開催する「第51回定期総会」当日に執り行います。

【参考】日本SC大賞・地域貢献大賞について  
協会創立30周年を記念して、これからのSCのあり方を示唆し、社会的役割を果たしているSCを顕彰し、SC業界の一層の発展に寄与することを目的として2004年に「日本SC大賞」を創設。また、当協会が策定した「地域貢献ガイドライン」(2007年1月)をもとに、地域活性化に取り組み、地域のコミュニティの核として地域住民の生活に欠かせない地位を築いているSCを表彰する「地域貢献大賞(倉橋良雄賞)」を2008年に創設しました。

※故・倉橋良雄氏

倉橋良雄氏は、1962年に欧米視察に訪れるなど早い時期からSCの研究に着手。日本初の本格的な郊外型SCである「玉川高島屋ショッピングセンター」(1969年開業)の開発に携わりました。当協会の前身である、「ショッピングセンター研究会」を発足し、その後、当協会の立ち上げに尽力され、1989年5月に第2代会長に就任。SC業界および協会の発展に尽力された功績は大きく、特に、「SCは、地域に根ざした施設であり、地域社会・地域住民との協調なくして成功はない。また、SCの成功は地域発展を促進するなど、地域貢献に寄与する」と常々提唱し実践されました。2003年8月死去。



第9回日本SC大賞・金賞  
経済産業省商務・サービス審議官賞  
『新静岡セノバ』



第7回地域貢献大賞(倉橋良雄賞)  
国土交通省都市局長賞  
『SAKURA MACHI Kumamoto』

<本件に関するお問合せ先>

【SC大賞担当】総合企画部:大内・金田  
Tel 03-5615-8510 Mail.member@jcsc.or.jp

【広報担当】情報・リレーション部:浅田・菰田  
Tel 03-5615-8524 Mail.pr@jcsc.or.jp

## 1. 受賞SC一覧 (1) 第9回日本SC大賞

### **金 賞／経済産業省商務・サービス審議官賞「新静岡セノバ」** 静岡県静岡市 / 中部支部推薦

#### 【選考理由】

中心市街地の新たな魅力創出と街づくりに貢献するため、2011年10月に開業。2021年で10周年を迎えた。静岡鉄道の発着駅で、新静岡バスターミナルを併設する。前身は1966年開業の「新静岡センター」。

特筆すべきは「トライ！はたらく時間 PROJECT」で、SC業界の営業時間・休館日の見直しをリードし、働き方改革やES改革、不足する人員問題に一石を投じている。これは店頭の販売員が健康的に働くことができる環境を整え、持続可能な社会を築くための第一歩であり、出店テナントだけでなく、他の商業施設や専門店の間でも共感の輪が広がっている。

地域支援という点では、地元企業を発掘し育てる「起業のつばさプロジェクト」を実施。他SCに出店できるまで成長した企業も生まれた。また、コロナ禍に「ガンバロウ シズオカ！」を提案し、静岡名産の乾物店や苦しむ地域の飲食店に月替わりで区画を提供した。さらに地域産業支援として「茶祭」を計画するなど、単なる販売支援ではなく「新しいお茶のある暮らし」を提案している。

ES施策では、ビジネスチャット「direct」を導入。営業時間外の災害時の安否確認、開閉館時間の連絡、一斉伝達などに役立っている。また保育施設を開設して約30人の子どもを預かり、スタッフの雇用を後押ししている。

サステナビリティへの取り組みでは、壁面緑化、屋上緑化、井水使用の空調設備、EV充電器の無料提供などを実施している。自衛消防隊が機能するように防災訓練を年30回以上実施。さらには全国のSCが参加できるディベロッパ従業員向けの静岡合宿(教育研修)を実施して、人づくり、ネットワークづくりを行っている点も評価できる。

### **銀 賞「ELM(エルム)」** 青森県五所川原市 / 東北支部推薦

#### 【選考理由】

「商業を中心とした街づくり」「五所川原の再生」を目的に、1997年11月に開業した。敷地内には温浴施設、道路を挟みホテルが隣接するなど、複合的要素を備えた商業施設である。近隣商店と併せて津軽地方の商業中心地となっており、商圈は青森市や津軽地方全域、秋田県大館市など広域で集客、足元商圈は5.2万人と少ないが、年間800万人の利用がある。店舗の約半数が当該周辺地域への出店1号店である。近隣には大手ディベロッパのSCが立地するなど、商環境は厳しいが出店テナントと一体となって運営してきた。

ES施策として、同SCは地方立地であるため、各テナントは本部と密な連携などが難しいこともあり、同SCのスタッフが本部や他店の情報収集を行っている。また、毎月店長面談を実施するなど、テナントとのコミュニケーションを図っている。

SDGs施策として、社会福祉協議会と連携し、フードバンクや衣料品のリサイクルなどを実施するほか、サステナブルバーゲン(わけあり商品)を年2~3回実施している。また地元貢献策として、期日前投票やコロナワクチンの集団接種会場、マイナンバー申請所として場所を提供する。

「地方」「人口減・高齢化」「弱小」「単館」という、SCにとっては厳しい条件のなか、「SCはマーケットに合わせるのではなく、お客様に夢を提供し、マーケットを創っていく」という強い思いが、地域住民に愛されるSCに成長した要因の1つといえる。加えて、同SCは地域の雇用を創出するとともに、従業員＝地域の大切なお客様であることから、「商業を中心とした街づくり＝エルムの“街”ショッピングセンター」が地域を豊かにするという開業時からの思いを次の世代に伝える人材育成にも力を入れている。

### **銅 賞「MARK IS みなとみらい」** 神奈川県横浜市 / 関東・甲信越支部推薦

#### 【選考理由】

2013年6月に開業し、2023年に10周年を迎える。みなとみらい駅に直結し、年間来館者数は1,415万人。施設コンセプトは「ライフエンターテインメントモール」。「なんか心地いい」をテーマに、近隣住民から観光客まで幅広いお客様に心地よく過ごしてもらえる施設を目指している。

みなとみらい地区の子育て世代などの集客とともに、3世代が楽しめる時間消費コンテンツやエンタメ、高感度なファッションゾーン、ユニクロ(神奈川最大級)、スーパーマーケット、ノジマ、トイザらスなどの大型店の集積により、生活者ニーズにも対応した、エリア集客の中心的役割も果たしている。

ES施策として、従業員休憩室の改善(フリーWi-Fi導入、個室新設、面談スペース設置など)、スタッフの資格取得など学びを支援するとともに褒章制度も充実している。

地域との関わりでは、屋上果樹園・菜園「みんなの庭」において子ども向け体験イベントを年100回ほど実施。幼児や小学生のSDGsの学びの場にもなっている。2017年から毎年、女性起業家支援イベントの開催、ポップアップショップの出店などを行っている。さらに地元ファッション専門学校に協力してファッションショーを開催している。

地域の核としての役割、地域貢献、地域密着、SDGsへの取り組みなど、SCとして積極的に各種施策を推進し、エリアを牽引する役割を担っている。近接する横浜美術館との連携イベントやグランモール公園などを会場とした「GOOD DAY PARK」を2018年から開催し、エリアのブランドイメージを高める価値創造にも注力している。



## ニューフェイス賞「グランベリーパーク」東京都町田市 / 関東・甲信越支部推薦

### 【選考理由】

2019年11月13日に開業。敷地面積約8.3万㎡。オープンモールとエンクロズドモールのハイブリッド型のSCで、6つの棟と7つの屋外広場で構成する。町田市との官民連携で、隣接する町田市の鶴間公園やスノーピーミュージアムなどとシームレスにつながる環境を整備。それぞれを連携させた施策を進め、非日常と日常の利便性を両立。街の成長や生活者のウェルビーイングに対し、同SCが大きな役割を担っているといえる。

コンセプトは、ここにしかない体験や経験、リアルな価値を打ち出す“生活遊園地”。アウトレットを軸に、「衣・食・住・職・遊・緑」のすべてが体験できる多様な業種業態で構成する。さらに、施設の中央に駐車場を設けることで、景観に一体感を醸成するとともに、回遊性を高めている。

ES施策として、従業員向け施設の充実に加えて、コワーキングスペースの会議室の無料貸し出し、店長焚火トークなどに取り組んでいる。

SDGs施策として、壁面緑化や太陽光パネルの設置、EV車対応、エコワークショップや古着回収、サンプル品・B級品マーケットなどを展開する環境体験イベントのグリーングッドマーケット、ゴミ拾いとジョギングを組み合わせたインナー向けプロギングイベントを開催するなど、SDGs達成に向けて積極的に取り組んでいる。

地域連携の一環として、南町田グランベリーパークが「5年後も10年後もまた来たい！」と思われる、皆の街として愛され続けることを目指し、町田市・東急とで「一般財団法人みなみまちだをみんなのまちへ」を設立。“南町田グランベリーパーク”で活躍する人々同士が共同・連携して、多彩な顔が揃うこの街を魅力的に彩る活動に積極的に取り組んでいる。街を皆で育てていく活動を資金面からバックアップするといった点でも街づくりへの貢献が大きい。

## リノベーション賞「スマーク伊勢崎」群馬県伊勢崎市 / 関東・甲信越支部推薦

### 【選考理由】

2018年秋から2022年4月までの3年半をかけて、施設全体の約65%にあたる約84店舗を入れ替える大規模リニューアルを2期に分けて実施。リニューアルを通じてSC内の6つの核ゾーンのうち、約70%の大型店を入れ替えた。食関連を充実させるとともに、1,200坪の大型アミューズメント店舗も出店した。

リニューアルコンセプトは「Gathering Place」。14年かけて地域の顧客との距離を縮めてきたことを踏まえ、「リアル店舗の魅力度・目的性を向上」「食の充実と時間提供できる空間」「生活提案型MDの充実」「環境変化に新たな運営手法の導入」を掲げて、集まり、憩う場になることを目指した。

フードコート内のキッズキッチン、キッズトイレ、子どもの遊び場、ママ用ワイド駐車場など親子が快適かつ安心できる空間づくりを実現する。環境整備の一環として、駐車台数を3,800台に拡大するとともに、駐車場の混み具合をスマートフォンで確認できる「AIを活用した満空把握システム」を導入して周辺道路の渋滞緩和にも努めている。

一連のリニューアルによって施設の認知度がお客様のみならず、テナント企業にも浸透していることもあり、商圏が30km圏から40km圏に拡大し、売上げもコロナ禍前を上回っている。市内の9割の子どもたちをカバーする似顔絵展や、市や学校などと連携したイベントを含めて年間約700件のイベントを実施する。また、エリアニーズの高い学生服の店舗を導入するなど、地域に密着した取り組みにも力を入れている。

## ES賞「ピオレ姫路」兵庫県姫路市 / 近畿支部推薦

### 【選考理由】

働きやすい環境改善やスタッフのモチベーションアップ、慰労施策が充実しており、ES関連の新しい取り組みにおいても積極的に挑戦している。

2016年秋にピオレ1の地下飲食店の閉店時間を1時間繰り上げて午後10時にし、さらに、2017年4月からはピオレ1、2の物販店の閉店時間を1時間繰り上げて午後8時に変更するなど、営業時間短縮の取り組みを他施設に先駆けて実施し、テナントから高い評価を得ている。休館日は従来から12月31日、元日の2連休を含めて年間7日を設けている。

従業員慰労施策として、「買い物をしたいが忙しくてできない」といった従業員の声をもとに、2021年度からポイントカード「ジョイワンカード」で店舗スタッフ限定の「5倍ポイントアップキャンペーン」をお客様向けとは別期間(9月と3月)に実施し、たいへん好評を得ている。

従業員研修では、オンデマンド型研修の動画を増やしたり、講師が個別に店舗を巡回する臨店研修を主にするなど、研修に参加しやすい環境づくりに取り組んでいる。

館内3カ所に写真撮影用のフォトスポットを設け、従業員による販売促進用のSNS投稿を推進。月に約100件の利用実績があるという。

お客様からの「お褒め」の声(ボックスやホームページ)が上がった際には、店長会で共有することに加え、表彰したり、インセンティブを実施したりしている(2022年は年間11件表彰)。

求人支援施策として、名刺サイズの求人募集カード「好きを仕事に」を店舗スタッフを通じてお客様に配布。近隣大学などにも求人情報の掲示を行っている点も注目される。

## 特別賞「VISON(ヴィソン)」 三重県多気郡多気町 / 中部支部推薦

### 【選考理由】

自然に恵まれた三重県多気郡多気町の東京ドーム24個分の広大な敷地に、ホテルや薬草湯、飲食、マルシェ(産直市)、農園、ライフスタイル雑貨などの多彩な業種業態のショップ(75店舗)が出店する国内最大級の商業リゾート施設として2021年7月に開業した。

地元の木材をふんだんに使い、傷んだ箇所は木材を張り替えながら補修することで、地域林業を継続的に支援している。「文化の継承」というコンセプトのもと、土地はディベロッパーのヴィソン多気が購入・所有しているため、地域やテナントとの持続可能な関係を重視している。

100年後を見据えた開発故郷(ふるさと)創成型のプロジェクトで、広大なエリアは9つのゾーンで構成し、SCというよりは商業とリゾート、ふるさと創生を絡ませた新しい「商業リゾート」領域を開拓している。20年で終えるプロジェクトではなく、100年先を見据えたプロジェクトに各テナントも「思い」ともにしている。敷地内にはナショナルチェーンやコンビニエンスストアはなく、自動販売機すら見当たらない。食物販であれば食の伝統や文化を継承する店舗や、ファッションやライフスタイルであれば生産者を尊重し、地域に貢献し、素材や製法が地球環境に優しい商品を扱う店舗を集積した。「100年後にも残る店」にこだわり、「VISON」のブランドと思いを明確に伝えている。

## 50周年記念特別賞「渋谷PARCO」 東京都渋谷区 / 関東・甲信越支部推薦

### 【選考理由】

日本のファッションビルの先駆的存在であり、トレンドに敏感な渋谷の街を牽引し続けてきた渋谷PARCOが2019年に帰ってきた。これまで培ってきた「FASHION」「ART&CULTURE」「ENTERTAINMENT」に時代感を捉えた「FOOD」「TECHNOLOGY」が加わり、約190店舗が出店。ブランドの大小やネームバリューを問わない独創的でエッジの効いたファッションを中心に、独自の編集で新しいモノ・コトを企画・発信するギャラリーや劇場・シアター機能も充実。空間と時間をともに楽しめる飲食ゾーンの提案など、PARCOの進化と挑戦がふんだんに注入された施設構成は、渋谷の感性を更新して未来につなぐ情報発信基地そのものである。

今回の建て替えにあたっては都市再生特別地区に指定され、地域貢献メニューも充実させた。立体的・複合的な建物外壁は「原石の集積」を表現したもので、同社のインキュベーション精神を具現化したものになっている。館内には、次世代のクリエイティブな人材やブランドを発掘・育成する売場やスタジオを備えた。また地域共同荷捌き場やビル内駐輪場の整備など、街歩きの妨げとなっていた課題を克服し、にぎわいと回遊性を高める歩行者ネットワークの拡充にも協力。帰宅困難者支援機能や高効率エネルギーシステム導入など、防災性や環境性も備わった。

1973年に開業した渋谷PARCOは建て替えを経て、2023年で開業50年を迎える。駅から遠く、坂道の先にある施設にも関わらず、変わらぬ吸引力で人を集め、渋谷になくはならない存在として進化を続けている。





銀賞 『ELM(エルム)』



銅賞 『MARK IS みなとみらい』



ニューフェイス賞 『グランベリーパーク』



リノベーション賞 『スマーク伊勢崎』



ES賞 『ピオレ姫路』



50周年記念特別賞 『渋谷PARCO』



特別賞 『VISON(ヴァイソン)』

## (2)第7回地域貢献大賞

### 地域貢献大賞(倉橋良雄賞)／国土交通省都市局長賞

「SAKURA MACHI Kumamoto(サクラマチ クマモト)」 熊本県熊本市 / 九州・沖縄支部推薦

#### 【選考理由】

旧熊本交通センターと県民百貨店の建て替えにより誕生した、ホール、ホテル、マンション、オフィス、結婚式場を備える複合型商業施設で、バスターミナルも併設する。飲食系店舗を約半数導入し、アパレル、各種雑貨、シネコンなどの幅広い業種を揃えて、さまざまな年齢層のニーズに対応している。地場企業を積極的にテナント誘致するほか、行政関連施設、医療施設、保育施設、旅行窓口など多様な生活サポート機能を備えている。

一年を通じて緑あふれる常緑樹、四季折々の表情を出す落葉樹や地被植物の花々など200種以上、3,000本・株以上の植栽で、屋上緑化を行うとともに各フロアに屋外デッキを設置することで、多くのレストスペースを設けてゆったりくつろげるスペースを提供している。

建物は耐震性を強化。帰宅困難者対策として1万人規模の避難受入可能な食糧・飲料水を備蓄するなど防災拠点として地域インフラの中心的役割を担っている。

旧熊本交通センター解体時に熊本地震が発生するなど、同SCは復興に向けたシンボルとしての期待も大きい。交通の要衝という立地から、大型商業施設だけでなく、地域の商店街、熊本城をはじめとした観光施設、地域産物など、地域ブランド形成のための情報発信、交流イベント、地域住民やエリア訪問者の利便性や快適性を重視したハード・ソフトの取り組みが展開されている。

### 地域貢献賞「イオンモール苫小牧」 北海道苫小牧市 / 北海道支部推薦

#### 【選考理由】

期日前投票所やマイナンバーカード出張申請所、警察や保健所関係の行政イベントを年間20回以上開催するほか、「地域の人々が集まる場」を提供するなど、地域インフラの核としての存在を保っている。同SCと苫小牧駅間では無料のシャトルバスを運行し、利用者も多い。全館で約1,500人の雇用を創出する。苫小牧市とは、防災協定および地域包括連携協定を、2023年4月には「大津波警報発表時、緊急一時避難施設使用に関する協定」を締結した。さらには日常的な再エネ・省エネシステムを導入するなど、防災や環境面においても総合的に取り組んでいる。

### 地域貢献賞「イオンモールいわき小名浜」 福島県いわき市 / 東北支部推薦

#### 【選考理由】

防災モールとして避難機能やBCP設備を充実させる一方、ハード面の整備だけに留まらず、命を守るための多様な防災訓練や防災イベント「いわき防災EXPO」を開催する。実際に地震や津波警報に伴う一時避難所として複数回住民を受け入れた実績をもつ。また、観光と連動したにぎわいづくりに取り組むほか、近隣の水族館とデッキで接続し、駐車場を共用。福島県の地元テナントも26店舗を数える。屋上を地元のいわき踊りの会場として開放するほか、プロサッカーチーム「いわきFC」とのパートナーシップ契約締結、磐城農業高校の生徒が作成した石鱈の販売など、地域の活力とのつながりも多数創出している。

### 地域貢献賞「ビナウォーク」 神奈川県海老名市 / 関東・甲信越支部推薦

#### 【選考理由】

地域との懸け橋となる多彩なイベントを主催し、SCというリアルな場を活かした街と人とのコミュニティを醸成している。隣接する海老名中央公園の管理を小田急グループとして一翼を担い、公園を使った地域共生型のイベントを多数開催している。コロナ禍で活動発表の場がなくなった県内学生を対象とした「海老名ビナウォーク校文化祭」や小田急電鉄と連携した商店街活性化イベント、小学生のお仕事体験など地域の多様なプレーヤーとのつながりや発信の舞台を提供し、地域になくてはならない存在としての地位を高めている。

### 地域貢献賞「カラフルタウン岐阜」 岐阜県岐阜市 / 中部支部推薦

#### 【選考理由】

地域に密着し、車のある暮らしの楽しさを発信する。高齢者や自動車を持たない人向けのオンデマンド乗り合い送迎サービス「チョイソコカラタン」は、地域公共交通の新しい形としてサービスを広げており、通院や通学など地域のラストワンマイルにも貢献している。また、プリウスにも搭載された蓄電池技術を太陽光発電に応用するなど、トヨタグループならではの取り組みは興味深い。さらには地域ニーズの変化に合わせた大規模リニューアルを複数回実施。子育て世代からシニア層に至るまで3世代が生き生きと過ごすことができる環境整備がハード・ソフトの両面で進み、地域経済活性化の拠点となっている。



## 地域貢献賞「アリオ八尾」 大阪府八尾市 / 近畿支部推薦

### 【選考理由】

かつて河内木綿の産地であったことから館内での苗植え体験や収穫イベントを実施。また「映画の街・やお」として80秒映画の祭典を行うなど、地域の歴史や文化をSCで体現している。「放課後アリオ」や地元高校生とのオリジナル商品開発、イベント広場「光町スクエア」を無償提供した河内音頭まつりなど、施設の愛着を高め、地域と一体となった取り組みを多数実施。地域の文化や祭事などの継承や、子どもや中高生の育成を考えた取り組みは、「地域になくてはならないSC」としての存在価値を高めている。

## 地域貢献賞「イオンモール高知」 高知県高知市 / 中国・四国支部推薦

### 【選考理由】

2020年に増床や駐車場・駐輪場拡充のリニューアルを実施した。平面駐車場を「よさこい祭り」の奏演舞場として提供したり、地場産業の販売支援イベントに活用するなど地域のプラットフォームとして機能している。また南海トラフ地震を想定した「災害支援協力に関する協定」を近隣病院などと締結して、災害発生時の救援支援基地として敷地を提供していくほか、地元消防と連携した各種訓練を実施し、有事に備えた確かな準備や連携体制を提供している。



地域貢献賞『イオンモール苫小牧』



地域貢献賞『イオンモールいわき小名浜』



地域貢献賞『ビナウォーク』



地域貢献賞『カラフルタウン岐阜』



地域貢献賞『アリオ八尾』



地域貢献賞『イオンモール高知』

### (3)支部特別賞

#### 北海道支部特別賞「東武サウスヒルズ」 北海道標津郡中標津町

【選考理由】

宅配サービスや、高齢者へ「まごころ宅配弁当」といった買い物弱者への取り組みや、NPO団体とのリサイクル品回収、地産地消のコミュニティイベントなど、地域のお客様と一緒に進化していきたいという想いが感じられる。

#### 東北支部特別賞「キャッセン大船渡」 岩手県大船渡市

【選考理由】

「100年先に引き継ぐまちづくり」をコンセプトに、大船渡駅周辺の持続的にぎわい創出や景観保全、商業の活性化を図るエリアマネジメントが特徴である。

#### 関東・甲信越支部特別賞「コクーンシティ」 埼玉県さいたま市

【選考理由】

大商業エリア大宮駅の隣駅にあり、心地よい場所「PARK MALL」をコンセプトに、テナント企業との信頼関係、そしてつねにお客様目線を大切にしている。

#### 中部支部特別賞「イオンモール白山」 石川県白山市

【選考理由】

ハード面、リーシング(MD)面に加え、白山市をはじめとした、地域の学校や団体と連携した地域活性・持続可能な取り組みなどを全国的に見てもトップクラスのレベルで成し遂げ、北陸最大級のSCとしてのブランド力を有するとともに、早期に白山市(石川県)の地域価値の向上を実現した。

#### 近畿支部特別賞「京都ポルタ」 京都府京都市

【選考理由】

コロナ禍を受け、MDやテナントミックスを見直すことにより、足元顧客を大事にしつつ、非足元顧客にも満足してもらえる施設づくりを推進するなど、環境変化に挑んでいる。

#### 中国・四国支部特別賞「さんすて岡山」 岡山県岡山市

【選考理由】

「もっと行きたくなる、また行きたくなる」をコンセプトに、2020年にリニューアル。足元から広域まで、多様なターゲットのニーズに応え、岡山駅の「街」機能を発揮している。

#### 九州・沖縄支部特別賞「JR博多シティ」 福岡県福岡市

【選考理由】

九州を本拠地とするテナント企業が同SCへの出店後に全国進出するなど、その飛躍に貢献している。また、ドルビーシネマを国内初導入するなど先進的な取り組みを絶えず行っている。



## 2. 選考基準

### (1) 日本SC大賞

これからのSCのあり方を示唆し、社会的役割を果たしているSCを顕彰し、SC業界の一層の発展に寄与することを目的として設けられた賞であり、幅広い視野で総合的かつ客観的に見て参考・模範となるSCを選考する。今回が9回目。

選考対象は全国のSC(ただし、特別賞は必ずしも「SCの定義」にあてはまらない商業施設等も可)。なお前回より、単一のSCに限らず同一エリアで統一的な運営をしている複数のSCや、歴代金賞(大賞)受賞SCも選考対象とした。

評価期間は新型コロナウイルスの感染拡大により実施していなかった3年間を含む2018年7月から2022年6月までの4年間の活動実績について複眼的に審査。

#### 【選考基準】

##### <金賞・銀賞・銅賞>

以下の7項目について総合的に評価し、その取り組み姿勢が明確であり、SDGsの視点を取り入れる等、将来の模範となるべき革新性があるか

##### 1) マーケティング

地域社会の市場性やニーズに基づき、明確な自SCのコンセプト設定と事業展開をしているか

##### 2) テナントミックス

生活者ニーズに対応したテナントミックスや新業態開発を視野に入れた継続的努力をしているか

##### 3) ディベロッパーとテナントとのパートナーシップ形成度

ディベロッパーとテナントとの良好で協業的な関係形成、ディベロッパーマネジメントに基づくテナントへのサポートとESのための努力、配慮はなされているか

##### 4) ブランディング

顧客との接点創出のため、ITを活用してSCの発信力を高めるといった誘客における仕掛けが見られるか

##### 5) 顧客サービス

顧客サービスに向けた施策を推進し、顧客から高い評価を得られているか

##### 6) サステナビリティへの取り組み

多様な来街者・利用者への快適な環境づくりと温室効果ガスや廃棄物等の削減、水の使用など地球環境に配慮がなされているか

##### 7) 地域への貢献と共存

地元行政や学校などと連携し、地域の防災機能を担ったり、魅力発信など、地域とのコミュニケーションに取り組んでいるか

##### <部門賞>

上記の7項目のほか、さらに特定の部門で他の模範となる特に優れた活動を行っているか

##### ○ニューフェイス賞

斬新なMDコンセプト、テナントミックスで話題を集め、予想以上の集客があったSC

選考対象および評価期間: 2018年7月から2022年6月にオープンしたSC

##### ○リノベーション賞

共用部の有効活用、DX活用等

##### ○ES賞

「ショッピングセンターにおけるES宣言・行動指針」(2018年1月24日発表)に準拠した優れた取り組みを評価されたSC

##### ○特別賞

時代変化に対応し、その時代の課題や問われているものに対して取り組んでいる施設、もしくは商業エリアを顕彰する。

### (2) 地域貢献大賞

SCの地域社会への貢献と地域活性化への取り組みや考え方を踏まえ、継続的に地域のコミュニティの核として、地域に密着し地域住民の生活に欠かせない地位を築いているSCを選考する。今回が7回目。

選考対象は、全国のSC。なお前回より、単一のSCに限らず同一エリアで統一的な運営をしている複数のSCや、歴代の地域貢献大賞受賞SCも選考対象とした。

評価期間は、新型コロナウイルスの感染拡大により実施していなかった3年間を含む2018年7月から2022年6月までの4年間の活動実績について複眼的に審査。

#### 【選考基準】

「地域貢献ガイドライン」(2007年1月策定)に基づいて以下の6項目について総合的に評価し、地域の特性を活かして元気に頑張っていて、地域住民の支持を得なくてはならないSCを表彰。

##### 1) 暮らしの総合的サポートの貢献度

##### 2) 地域のプラットフォームとしての貢献度

##### 3) 地域環境との共生、安全性・快適性への維持・管理の貢献度

##### 4) 地域経済および地域商業の健全な発展への貢献度

##### 5) 働く場の提供と雇用創出の貢献度

##### 6) 地域の「まちづくり」への協力と貢献度

### 3. 第9回日本SC大賞・第7回地域貢献大賞選考委員会 委員一覧

#### <委員長>

棕本 充士 (株)グルメ杵屋 代表執行役社長  
( (一社)日本ショッピングセンター協会 副会長)

#### <副委員長>

山中 拓郎 三菱地所プロパティマネジメント(株) シニア・エグゼクティブ・アドバイザー  
( (一社)日本ショッピングセンター協会 理事 / 総務・会員委員会 委員長)

矢野 靖二 (株)大創産業 代表取締役社長  
( (一社)日本ショッピングセンター協会 理事)

#### <委員>

加藤 雅樹	(株)アダストリア	店舗開発本部 本部長
白石 将	(株)ジンス	地域共生事業部 事業部長
木山 茂年	(株)東京デリカ	代表取締役会長
高山 久	(株)ユナイテッドアローズ	執行役員 CCO(チーフカスタマーオフィサー)
米田 泰子	(株)東急総合研究所	研究部 部長 主席研究員(SC経営士)
百瀬 則子	(一社)中部SDGs推進センター	副代表理事
野口 智雄	早稲田大学	社会科学総合学術院社会科学部 教授
中野 剛志	経済産業省	商務情報政策局 商務・サービスグループ 消費・流通政策課 課長
光安 達也	国土交通省	都市局 まちづくり推進課長
小川 敬	(株)織研新聞社	編集局 編集委員
高橋 直也	(株)産業タイムズ社	商業施設新聞 編集長
白鳥 和生	(株)日本経済新聞社	編集総合編集センター 調査グループ 調査担当部長
椿 浩	(一社)日本ショッピングセンター協会	専務理事

(敬称略)

\*所属・役職等は2023年3月末時点

#### ●ショッピングセンター(SC)の定義

ショッピングセンターとは、1つの単位として計画、開発、所有、管理運営される商業・サービス施設の集合体で、駐車場を備えるものをいう。その立地、規模、構成に応じて、選択の多様性、利便性、快適性、娯楽性等を提供するなど、生活者ニーズに応えるコミュニティ施設として都市機能の一翼を担うものである。

#### <SC取り扱い基準>

ショッピングセンターは、ディベロッパーにより計画、開発されるものであり、次の条件を備えることを必要とする。

- 1.小売業(物販)の店舗面積は、1,500㎡以上であること。
- 2.キーテナントを除くテナントが10店舗以上含まれていること。
- 3.キーテナントがある場合、その面積がショッピングセンター面積の80%程度を超えないこと。  
ただし、その他テナントのうち小売業(物販)の店舗面積が1,500㎡以上である場合には、この限りではない。
- 4.テナント会(商店会)等があり、広告宣伝、共同催事等の共同活動を行っていること。

SCのイメージとしては、単体の施設ではなく複数の店舗の集合体であるとともに、1つの単位として管理・運営されている施設を指す。具体的な例としては、百貨店やGMS、SMなどを核とした大型商業施設やシネコン・ホテル・公共施設などを併設した複合施設、ファッションビル、駅ビルや地下街などがある。またディベロッパーという言葉も、本来の不動産開発という意味よりはむしろ、SCを管理・運営する立場を指す場合のほうが現状では多い。